



子宮頸がん・乳がん Q&A

	子宮頸がん	乳がん
どんな病気？	ヒトパピローマウイルスというウイルス感染が原因で発症するがんです。	乳房にしこりができるがんで、 唯一自分でみつけれられる がんと言われています。
症状は？ 	初期にはほとんど症状がないことが多く、進行すると子宮や卵巣の摘出を余儀なくされます。放置すると全身にがんが転移して命にかかわることもめずらしくありません。	最も多く見られる症状はしこりです。進行すると乳房の発赤、しわ、ただれ、乳房の高さに左右差がある、乳房から分泌物が出るなどの症状がみられることもあります。放置すると乳房を切除することになるだけでなく、命にかかわることもあります。
どんな人がかかりやすい？ 	性交により感染する確率が高いため、女性の約80%が一生のうちに一度は感染すると言われています。 発症は20歳代後半から上昇し始め30歳代がピークです。年間約15,000人がかかり、3,500人が亡くなっています。	以前は30歳代後半から増え始め、40歳代後半がピークで、次第に減っていくと言われていましたが、最近は70歳・80歳代の方も増えています。 日本の女性が最もかかりやすい がんで、30歳代に入ると子宮がんの何倍も確率が高くなります。年間約35,000人がかかり、10,000人近くが亡くなっています。
治療法は？	主に手術療法、放射線治療、化学療法があります。初期であれば、妊娠の希望を考慮することもできます。	放射線療法、薬物療法などを組み合わせた治療が行われます。初期であれば乳房の温存を考慮した手術もできます。

【検診のご案内】

○子宮がん検診は、柔らかいヘラなどで子宮頸部の細胞を軽くなでるように調べる「細胞診」を行います。検診を受けると初期の子宮頸がんを見つけることができます。

○乳がん検診では「乳房X線検査」を行い、発見率は視診・触診の約3倍と言われています。

	対象	検診内容	負担金
子宮がん検診	20歳以上(2年に1回)	視診・内診・細胞診	1,800円
乳がん検診	40歳以上(2年に1回)	視診・触診・乳房X線検査	1,500円

☆受診するためには受診票が必要です。電話またはファクスで保健センターへお申し込みください。



マタニティマークに思いやりと優しさを

このマークをご存じですか。バスや電車の中、最近では駐車場でもみかけるようになりましたが、「マタニティマーク」といって、おなかに赤ちゃんがいる印です。

妊婦さんは変化する体や体調に一喜一憂し、おなかの赤ちゃんの成長とともに母性を育てていきます。体も気持ちも不安定ですが、お母さんが周囲の人の思いやりや優しさにふれることで、安心して地域で子どもを育てていくことができます。

市では、母子手帳の交付時にマタニティマークの車用ステッカーを配布しています。このマークをつけた車を見かけたら、優しい運転と優先駐車場の利用などにご協力をお願いします。



車用ステッカー